



大正・昭和の鳥瞰図絵師
連載一第10回
吉田初三郎の世界



鞍馬電鉄沿線名所図絵

鞍馬電鉄沿線名所交通鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

もともと京都電燈が経営していたのが、出町柳を起点に八瀬へと向かう叡山電鉄と、途中の山端（現・宝ヶ池）から京の奥座敷と呼ばれる貴船、鞍馬へ向かう鞍馬電鉄の路線である。

昭和十七年、京都電燈はその鉄軌道を京福電気鉄道に譲渡。その後、昭和六十年に京福電気鉄道から分離し、新たに叡山電鉄が設立、翌年、「叡山本線」「鞍馬線」の二路線を開業した。平成十四年からは、京阪電気鉄道の100%資本参加で完全子会社化している。

現在は、京都観光を担う花形路線として名所探訪・行楽に、周辺住民の生活路線として賑わっている。

本図は、昭和三年九月刊で京都電燈傍系の鞍馬電鉄時代の作品である。山端―市原間は同年十二月中旬の開通、山門―毘沙門間のケーブル開通は四年夏、市原―鞍馬（仮駅）は四年十月中旬開業、鞍馬（仮駅）

藤本一美
首都大学東京（都立大学）非常勤講師。日本国際地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。
近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、
最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『鞍馬電鉄沿線名所図絵
〔鞍馬電鉄沿線名所交通鳥瞰図〕』

(昭和3(1928)年9月10日)
鞍馬電氣鉄道株式会社 発行/日本ライン蘇江の観光社 印刷



比叡山、鞍馬に通じる
「山岳路線」

「叡電」の愛称で親しまれる叡山電鉄の叡山本線、鞍馬線は、鴨川と高野川が合流する出町柳が起点。平成元年には京阪電気鉄道の鴨東線が地下線で開業、地上にある叡電の出町柳駅にも京阪の駅の出入口に直結する新しい駅舎ができ、大阪方面と直結。利便性が大きく高まっている。叡山本線は比叡山の麓・八瀬へと向かい、鞍馬線は出町柳駅から5つ目、宝ヶ池駅で分岐して鞍馬天狗や牛若丸の逸話で名高い鞍馬に至る。一年を通して古都・京都を訪れる観光客で賑わうとともに、山深い洛北の大切な生活路線として沿線住民に利用されている。

叡山電鉄株式会社
Izumi Electric Railway Co., Ltd.
設立：昭和6年7月6日
営業開始：昭和61年4月1日
本社：京都市左京区田中上柳町25番地の3

―鞍馬間は同年十二月二十日の開業・全通だから、作品は手回しよく、一年以上前から開通したかのよくな(電車が走行中の絵柄)表現になっている。

初三郎の絵に添へて一筆も「今や鞍馬電鉄は、叡山電鉄と相結んで、其の山端駅より直路此の霊山の門前に至り、更らにケーブルは高く山を貫いて本堂のほとりに至る。まことに探勝参拝者にとりては至便ししよ至捷しよの交通路といはねばならない」と結ぶほどだ。

カラフルで大胆な構図を見てみよう。図の右側には鞍馬山の山上に鞍馬寺と護摩堂を大きく配置し、その山麓に由岐神社や山門、鞍馬駅舎を、対岸の貴船山麓には貴船神社と奥社境内を、さらに小野小町で有名な小野寺や実相院などを立体図絵風の筆致で巧みに描写していて、今にも飛んでも行ってみたい誘惑にかけられそうである。

左半分には、西の愛宕山と東の比叡山、その中間には京都の町並みや金閣寺、銀閣寺などを描写している。もちろん、初三郎お得意の富士山、日本ライン、朝鮮まで描く「遊び心」はうれしい限り。

なお、初三郎は「鞍馬寺」(大正十三年)の作品も残している。